

3/27 スマートボール&スロット実機で遊ぼう  
マルハンの地域交流イベント



マルハン千歳店と千歳市ボランティアセンターが、スマートボールなどを楽しむ地域交流イベントを開催。会場の千歳市ボランティアセンターに、地域住民など約30人が来場しました。イベントにはスマートボールやスロット実機が用意され、マルハンスタッフが操作をサポート。会場では、遊技を楽しむ来場者から「懐かしい」、「もう1回やりたい」などの声があがっていました。イベントは地域の交流の場づくりを目的としており、楽しみながら手指を動かすことで、頭の体操となる効果も期待されます。マルハン千歳店の<sup>うすだ</sup>上田 徹也 店長は「皆さんと一緒に私たちも楽しめました。参加された方々には、『遊技って楽しいな』と思って帰ってもらえたらうれしいです」と話していました。マルハン千歳店は、市民との地域共生に力を入れており、託児所などでも同様のイベントを開催しています。

3/19 千歳市空港開港100年記念コーヒー  
“12BLEND TYPE100” 新登場



市内のカフェ「12COFFEE」を運営する山三ふじやグループの「株式会社サウザンド」が、千歳市空港開港100年を祝い、記念ブレンドのコーヒー「12BLEND TYPE100」を開発しました。TYPE100は、「歴史の重厚さ」をコンセプトにした強めのビターテイストが特徴。中深煎りの豆が持つ力強い質感を味わえながらも、後味は千歳のクリアな空をイメージした、すっきりとしたテイストに仕上がっています。山三ふじや代表取締役の<sup>わたなべ</sup>渡部 順大さんと企画開発部の<sup>ひし</sup>菱 一輝さんが考案した力作で、渡部さんは「雑味が出ないよう、ブレンドの種類や焙煎の仕方を数えきれないほど試しました」と振り返りました。TYPE100は、12COFFEEほか市内数か所で提供・販売されています。



3/10 千歳市空港開港100年記念カクテル  
2作品が公式カクテルに



カクテル振興協会千歳が、千歳市空港開港100年記念の公式カクテル2種類を発表しました。「BAR RED RAVEN」を<sup>てらもと</sup>経営する寺本 大佑さんは、梅酒と牛乳で仕立てた「Snow Runway」(写真手前)を開発。牛乳の白色が白雪をまとう滑走路を、ガラスの縁の半分に付けられた塩が新千歳空港の半円型ターミナルビルを表現しています。「Bar In the glass」の<sup>たけし</sup>竹越 祥さんが手がけたのは、甘酒、ラベンダー風味のジン、レモンジュースをミックスした「北花雫 -Hokka Shizuku-」(写真奥)。ブルーキュラソーを加え、澄み渡る青空を表現しています。公式カクテルは協会の加盟店舗で順次、提供予定です。

3/12 北海道の玄関口の水際対策  
新麻薬探知犬「メイプル号」就役



新千歳空港内の函館税関千歳税関支署で、新麻薬探知犬「メイプル号」(ラブラトル・レトリバー、雌)の就役式が行われました。メイプル号は千葉県成田市市内の訓練センターで約3か月間の訓練をこなし、昨年12月から同空港に配備。デモンストレーションでは、見事に麻薬のにおいを探し当て、ハンドラーから「グッドボーイ!」と褒められ、その実力とともに固い絆も見せてくれました。ペアを組む担当ハンドラーの<sup>さわぐち</sup>澤口 李央事務官は、メイプル号を「好奇心が旺盛で、いい意味で人に頼りすぎない」と評価。「すごく賢い犬なので、いいところを伸ばして、一番摘発できるような犬に育てていきたい」と意気込みを話しました。

3/9 ヤマザキ マリ氏、鳥山 雄司氏らが新イベントをPR  
支笏湖 イルミナ ヒストリア



支笏湖畔で初開催中の「支笏湖 イルミナ ヒストリア」は、光とクラシック音楽が共鳴する体験型イベント。鶴雅ホールディングス(株)から寄贈されたイルミネーション機材などで幻想的な世界を演出しています。ヤマザキ マリ氏(漫画家・文筆家)が支笏湖を舞台に紡いだ物語に、<sup>とりやま</sup>鳥山 雄司氏(ギタリスト)が書き下ろした楽曲が加わり、世界観をさらに豊かに。会場ではお二人の朗読と演奏のほか、馬頭琴やハンマードルシマーの演奏家によるコンサートなども開催。この日、本イベントのPRのため市役所を訪れた両氏は「支笏湖は自然と一体となるイベントをやるには最高のロケーション」と大絶賛。この春、支笏湖に新たな感動の物語が刻まれることとなるでしょう。



詳細はこちらから

**人のうごき**

《総人口》  
96,592人 (-302)  
男性 49,142人 (-170)  
女性 47,450人 (-132)  
《世帯》52,829世帯 (+79)

( )内は、前月との比較です。

4-1 現在

**広報ちとせからのお知らせ**

広報ちとせの発行日は毎月10日です。この日までに届かないときは、次の番号にご連絡ください。なお、町内会に加入しているしていないを問いません。

広報広聴課 広報係  
☎(24)0104 FAX(22)8851

手づくりの着陸場から新千歳空港へ開港100年の歴史を振り返る

**ちとせ空港**

Vol.36 現代の新千歳空港へ

**百年物語**

**新たな「顔」**  
新千歳空港が開港した翌年の平成元年7月、米テキサス州のダラス・フォートワース空港を参考に設計された新ターミナルビルの起工式が行われました。およそ3年の歳月をかけて建設された新ターミナルビルは、平成4年7月1日に供用を開始。地上4階(一部5階)建て、地下2階建ての半円型ビルで、延べ床面積は旧ターミナルビルの約3倍。2階中央のセンタープラザを囲むように土産

物店や飲食店が並び、地下2階には15分おきにJR千歳線の快速列車が乗り入れる「新千歳空港駅」が設けられました。

平成8年4月には、B滑走路が供用を開始。3000m級の滑走路を

新しいターミナルビルに、2本の3000m級滑走路。新千歳空港は、大量輸送の時代にふさわしい新たな「顔」を得て、名実ともに北の拠点空港となったのです。

軍民分離編 おわり

供用開始直前の新ターミナルビル(平成4年5月)